

令和 3 年度防府市図書館サービス振興基本計画実施状況の委員評価

記号の見方：●課題、○評価、◇要望、◎質問 ※その他

1. 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館	2. 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館	3. 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館
<p>○様々な世代が利用できる程多く（517,848 冊）の蔵書数がある。</p> <p>○コロナ防止のための臨時休館でなかなか思うようには実施できなかつたものもあるようだが、児童図書購入が増えたことは評価できる。</p> <p>○一昨年はコロナ禍で休館が多かったが、臨時休館中に予約資料の貸出や予約・リクエストの受付、移動図書館車の運行を実施し、昨年はずかしながらも個人貸出者数、館外個人貸出冊数が増えたことを評価する。</p> <p>○システムの更新に伴い、資料検索などのためのタブレット端末機を導入したことや、フリースポットWi-Fiを設定した「今の時代」にマッチした取り組みは、評価に値する。</p> <p>○「防府市メールサービス」・防府市文化振興財団広報「メールマガジン」へ随時記事を掲載され、これまで以上に情報発信（広報）に力を入れたことは素晴らしいと思う。</p> <p>○コロナ禍での対応として、体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドを設置したことを評価する。</p> <p>○移動図書館車「わっしょい文庫」の充実は、遠方に住む人にとって、とてもありがたいサービスだと思う。今年度から大道中学校も新ステーションに加わり、関心をもっている生徒が見受けられる。</p> <p>◇図書館年報の入館者数を月別にして掲載すると開館、休館中の状況が分かり易いので記載を望む。</p> <p>◇お話のへやなどの閉鎖や座席数の半減などの早期終了を望む。</p> <p>◇避難訓練を開館時に実施し、避難口への誘導訓練をしてはどうか。</p> <p>◇わっしょい文庫での貸出冊数がステーション別に記載してあるが、冊数・人数に関係なく運行してほしい。</p> <p>◇オンライン図書館研修への積極的な参加を期待する。</p> <p>◎「図書館向けデジタル化資料送信サービスについて、『図書館年報』（24頁）には、「一般が18件」とあるが、ある特定の方が何回も利用したのか。</p> <p>◎電子書籍導入費用はどうなるのか、従来の資料費にプラスされることを望む。</p>	<p>●子ども読書フェスティバル、図書館まつり、ボランティア連絡会議、ボランティア養成講座等が実施できてよかったが、ボランティアの枠をひろげて若い人の参加が増えるようにするなどして、各行事の参加者数を増やすための工夫をしていく必要がある。</p> <p>○コロナ禍のため開催できなかったイベントもあったが、感染症予防をしながら防府市子ども読書フェスティバルや防府図書館まつりなどを、開催月日を変更したり、リモート開催を取り入れたりしながら実施していることが地域の人々の意識向上につながっており、評価に値する。</p> <p>○家族や地域の絆の希薄化が進む中においてコミュニティセンターとしての機能を兼ね備えた市立図書館の在り方は、利用者の増加につながっていると思われる。</p> <p>◇サークルを中心とした図書館ボランティアだけでなく、個人で参加できる場を設けてはいかかだろうか（県立図書館のサポーターの活動を参考に）。</p> <p>◇ボランティア養成講座はリモートや中止講座もあり、今後の開催に工夫を期待する。内容も初心者ボランティアを養成するような講座であったり、受講後の活動場所等の情報もあれば新しい方の参加もあり、交流の場が生まれるのではないかと。</p> <p>◎「各行事の参加者数を増やす方策」を課題に挙げているが、具体的にどのようにすれば参加人数を増やすことができると考えているか。</p> <p>※「図書館まつり」は時期が大幅にずれたが、今後の開催方法への参考になった。</p> <p>※「ボランティア養成講座」もリモート開催の際の対応について参考になった。</p>	<p>●「大人のくらし塾」は外部の講師を招いて大好評だったとのことだが、アクティブシニアを講師に迎えるという発想があってもよいのではないかと思う。</p> <p>○詩人・絵本作家によるトークイベント開催など地域の文化発展に貢献されている。</p> <p>○コロナ禍であっても、対策を講じながらイベントを実施した点は評価できる。</p> <p>○駐車場利用の無料券は、大いに評価する。（令和4年度）</p> <p>○コロナ禍のため、開催できなかったイベントはあったものの、例年通り、展示コーナーなどで、月例資料展示を24回、ミニ資料展示を39回開催されていること、また文化行事として、数多くの講座などを開催されていることを評価する。図書館職員の負担にならないように留意しつつ、これからも続けてほしい。</p> <p>○ビブリオバトルの中学生大会を評価する。高校生大会も期待したい。</p> <p>○シニア向けの実用講座「大人のくらし塾」は良い企画であり、評価する。今後とも継続してほしい。</p> <p>◇集会文化活動の果たす役割は、大であるだけに、コロナ禍にあつて、感染予防対策や参加者数、会場の規模等を考慮して参加者数を増やす方策を講じることが望ましい。</p> <p>◇研修室の利用制限の緩和をしては如何か。</p> <p>◇今年から文化福社会館から生涯学習施設が移転されることから、ルルサス周辺は図書館を含めて大きな文教地帯になる。位置表示板の作成を作成するなどしてルルサス3階にある図書館をもっとわかりやすく表示してほしい。</p> <p>◇新型コロナ予防のためのお話しのへや閉鎖は、研修室でのおはなし会実施による課題も多く、早期再開を期待するが、ブラウジングコーナーでの開催も試みて欲しい。</p> <p>※昨年度、大道中学校からも「ビブリオバトル（知的書評合戦）の参加者があつたと聞いている。このような活動が、子どもたちの表現力の育成につながることを期待している。</p>

4. 地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館	5. 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館	6. 子どもたちの読書活動を進めていく図書館
<p>○3項目にわたる事業計画、コロナ禍での対策を講じながら予定通りに取り組むことができたことからすると、評価は「A」でよいのではないか。</p> <p>○郷土のコーナーが年々充実しており、郷土の歴史や文化について、深く学ぶことができるようになっている。</p> <p>○地域資料、防府関係資料について、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努められていることを評価する。</p> <p>○郷土資料収集冊数が寄贈により増えたことを評価する。</p> <p>○防府図書館開館80周年記念事業として『防府図書館80年の歩み』を発行されたことや、例年通り防府史料を刊行し、公開されたことは、十分に評価に値する。地域の歴史や文化に係る事業を積極的に行うことは、防府市立防府図書館の特色のひとつであり、強みであると思う。これからも地域資料の情報発信を継続することを期待する。</p> <p>○「上山満之進と三哲文庫」の展示による情報発信を評価する。新名称標の「三哲文庫」やロゴもしっかり馴染んでいる。</p> <p>◇郷土資料収集冊数が増えたことなど、しっかり情報発信に努めてもらいたい。</p> <p>◇郷土の偉人をもっと紹介し、その功績を展示してほしい。</p> <p>◇児童用パスファインダー（◆）などをまとめた子ども向けの郷土資料作成への挑戦を期待する。</p> <p>◇防府図書館開館80周年記念事業を評価するが、図書館入口の新名称標についての説明板があると理解しやすい。</p> <p>◇国際理解を深めるための何らかのイベントがあってもいいのでは。韓国以外にも目を向けてほしい（英語絵本のよみきかせは、学校でも増えていると思う。）。</p> <p>【語句説明】</p> <p>◆パスファインダー:利用者に対して、特定の主題に関する各種情報源や探索方法を紹介・提供する初歩的なツール。通常、その図書館のコレクションやサービスをもとに作成される。</p>	<p>○小学校で開催した選書会は、学校司書の研修のもと実施されており、子どもたちにとっても大変有意義な会となった。</p> <p>○例年通り、防府市文化振興財団内連携事業を開催することは、防府図書館の特徴のひとつといえる。また、学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務も、防府図書館の特徴のひとつである。防府にとどまらず、モデルとして山口県内にも積極的にPRしてほしい。</p> <p>○小学校での選書会のためのリスト作成や新刊児童書貸出、留守家庭児童学級への貸出選書の代行を評価する。</p> <p>○ソラールとの連携「あつまれ！本の虫」は、とてもよかった。図書館の持つ力が発揮されて楽しむことができた。</p> <p>◇学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムのさらなる活用普及を期待する。</p> <p>◇独創性があり好評のため、他団体や財団3館との連携で企画展の合同開催を期待する。</p> <p>◇山頭火ふるさと館との連携がもっとあるといいと思う。</p> <p>※大人も子どもも興味をもったソラール「あつまれ！本の虫」の展示やギャラリートークのように、今後とも教育文化施設と連携しての事業開催を期待する。</p> <p>※外部機関や団体と深く関わりを持つ中での事業の推進、コロナ禍にあってもやらざるを得ない状況におかれていただけに、今までの取り組みを振り返る中で、新たな発想を生み出すきっかけもできたのではないか。</p>	<p>●調べる学習コンクールの周知は早めに徹底してほしい。夏休みが短くなっているようで、より難しくなるように感じる。</p> <p>○努力されていると感じる。評価Aでもよい。</p> <p>○子どもたちが本が好きになり、図書館が好きになるしかけを多く実施されている。</p> <p>○読書離れが進む中であって、第3日曜日（家庭の日）に開催された「さんさんおはなし会」や幼稚園での「絵本の読み聞かせ」等は、参加した保護者が読書活動の意義や重要性を再認識し、「やってみよう。」というきっかけにつながることを期待できる。</p> <p>○令和2年度はコロナ禍により開催されなかった「読書感想文教室」が開催され、うれしく思う。これも防府図書館の特徴のひとつである。</p> <p>○中学生を巻き込んだビブリオバトルを行ったことは素晴らしい。</p> <p>○図書館を使った調べる学習コンクールの継続実施を評価する。</p> <p>○子どもたちが参加しやすい夏休み中に研究や体験をする学習が多く開催され、積極的に子ども達と関わり読書活動に取り組んでいる。</p> <p>○図書館職員によるブックトーク実施を評価する。職員養成のために継続を望む。</p> <p>◇読書感想文教室の毎年の開催を希望する。</p> <p>◇今年度は、高校生を巻き込んだ企画の開催を期待する。</p> <p>◇小学校の図書委員の児童に年1回出前講座を検討してほしい。</p> <p>◇子ども読書活動推進のためのボランティアとの連携・協働業務により、専門的な立場から子どもたちに本の楽しさを伝えていただけることを期待している。</p> <p>◇ルルサスの1Fに大きな声を出しても大丈夫な子ども図書室があるとよい。</p> <p>◎読書感想文教室は新規の講座だったが、子どもたちの反応はどうか。</p> <p>※前年度に引き続き「クリスマスおはなし会」で職員がサンタクロースに扮して登場したことは、さぞかし子どもたちは大喜びだったと思う。</p> <p>※新型コロナウイルス感染防止のためのイベント中止や延期などの経験を今後の開催に活かすことを期待する。</p>

7. 障害者や高齢者に優しい図書館

- 「防府図書館 ひなぎくネット」をPRし、視覚障害者へのデータ提供を促進し、周知してほしい。
 - 障害者や高齢者に優しい図書館をめざし、ボランティアと連携し、様々なサービスが行われているが、一層の周知に努力することがボランティア育成にもつながることを期待する。
 - 障害者や高齢者の図書館利用促進のために、様々なサービスや情報の提供等が行われていることを評価する。
 - 各種読書補助具が用意されており、それを利用されていることは素晴らしい。
 - 録音図書再生機設置や国立国会図書館送信承認館登録など障害者向けの新サービス開始を評価する。
 - ◇大活字本や音声資料の紹介の場を設けてはいかがだろうか。利用する対象者になる前に知識があると、利用しやすいのではないかと感じる。
 - ◇高齢者向けに、目まぐるしく変化していく社会に対応できるよう身近な新しい言葉やシステムについての講座などの新しい企画があれば良い。
 - ◇「移動図書館車」の利用者を障害者や高齢者にも広げることができないか。
 - ◎市広報紙の音声版・点字版を図書館の提供・貸出はあるか。
 - ◎前年度に引き続き対面朗読の利用がなかったということだが、広報はどのようにしているか。対面朗読は、図書館職員が行うのか、それともボランティアが行うのか。
- ※環境を整えてもなかなかサービス利用してもらうには、ハードルが高い。

令和3年度防府市図書館サービス振興基本計画 実施状況評価表(案)

資料2

評価基準 A:計画通り実施し、一定の成果があった。
 B:概ね計画通りだが、不十分な点や今後の課題が残った。
 C:不十分な点や課題が多く、計画通りに行かなかった

1 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館

(1)市民の日常生活、学習活動に寄与する、質・量ともに充実した資料を持つ図書館

R3年度 事業計画	①資料収集業務 ・「防府図書館資料収集要綱」に基づく適正な選書・収集と質・量両面の充実 ・図書購入目標冊数12,600冊。内一般9,500冊、児童3,000冊、郷土関係100冊 ・視聴覚資料購入目標点数155点。内CD130点、DVD25点 ②資料分類・目録整備業務 ・迅速・正確な資料の組織化(分類・目録)、装備と分かりやすいOPAC(オンライン閲覧目録)の提供 ③書架管理・蔵書点検業務 ・書架の整理整頓、全開架資料の蔵書点検の実施(12月・3月) ④資料提供業務 ・正確・迅速な貸出、返却、登録、予約・リクエスト受付業務の推進		
事業実施 状況	・令和3年度館外個人貸出者数125,702人、館外個人貸出冊数482,909冊 ①資料収集業務 ・「防府図書館資料収集要綱」に基づいて適正な選書・収集を実施 ・図書購入冊数13,136冊。内一般9,163冊、児童3,738冊、郷土関係108冊 ・視聴覚資料購入点数156点。内CD131点、DVD25点 ②資料分類・目録整備業務 ・迅速・正確な資料の組織化(分類・目録)、装備と分かりやすいOPAC(オンライン閲覧目録)を提供 ③書架管理・蔵書点検業務 ・書架の整理整頓、全開架資料の蔵書点検を実施(12月10日・11日・12日、3月1日・2日・3日) ④資料提供業務 ・貸出、返却、登録、予約・リクエスト受付業務を迅速・適正に遂行 ・臨時休館中(5月13日～5月31日、8月28日～9月26日)に、予約資料の貸出と予約・リクエストの受付を実施		
課題等	令和4年度からの電子書籍購入にともなう、視聴覚資料も含めた購入目標の見直し		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により、資料の提供が計画通りには実施できなかった	評価	B

(2)老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館

R3年度 事業計画	①コンピュータシステム管理業務 ・円滑な運用によるサービスの強化 ・Web上での検索・予約・貸出期間延長、読書手帳、My本棚、読書マラソン等の機能の活用 ・システムの更新(12月) ②情報発信(広報)業務 ・ホームページの整備、充実 ・「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」の発行(月刊)、市広報「ほうふ」・防府市文化振興財団広報紙「イベントアイ」への定期的な記事の掲載、地域コミュニティーFMラジオやケーブルテレビ等の活用の推進 ③図書館年報作成業務 ・「令和2年度図書館年報」(一般用・子ども用)の発行(5月31日) ④サービス環境整備・安全対策・危機管理業務 ・施設・設備・備品の日常点検と安全で快適な利用環境の整備、的確な状況把握と防犯管理、危機管理体制の改善と整備(定期避難訓練2回実施) ⑤利用マナー啓発業務 ・「マナーアップキャンペーン」「グッドマナーチャレンジ」(7月1日～8月30日)の実施
--------------	---

事業実施状況	<p>①コンピュータシステム管理業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの世代等によって異なる利用目的に適応できるサービスを展開 ・Web上での検索・予約・貸出期間延長、読書手帳、My本棚、読書マラソン等についてホームページ上で紹介 ・システムを更新(12月13日～12月17日)し、資料検索用・利用者開放インターネット用にタブレット端末機を導入するなど、一部の機器構成を変更するとともに、持ち込みパソコンコーナーからブラウジングコーナーまでのエリアでフリースポットWi-Fiが使えるようにした <p>②情報発信(広報)業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容を随時更新 ・「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」を毎月発行、「行政関係図書紹介」を季刊で発行、市広報「ほうふ」・防府市文化振興財団広報紙「イベントアイ」・地域情報誌「ほっぷ」へ定期的に記事を掲載、「防府市メールサービス」・防府市文化振興財団広報「メールマガジン」へ随時記事を掲載、地域コミュニティーFMラジオ(FMわっしょい「防府市からのお知らせ」)に毎月第2・4木曜日に出演 <p>③図書館年報作成業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度「図書館年報」(一般用)・「数字で見る防府図書館」(子ども用)を発行(5月31日) <p>④サービス環境整備・安全対策・危機管理業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備・備品の点検と修理を随時実施し、図書館まつり実行委員会より寄贈を受けたインフォメーションディスプレイを入口に設置 ・保安・警備・防犯対策の一環として、施設管理会社との協議を毎月開催 ・図書館独自の消防避難訓練(12月17日、3月3日)を実施、ルルサス防府消防避難訓練(10月28日、3月24日)に参加 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館(5月13日～5月31日、8月28日～9月26日)、準備室・お話のへや等を閉鎖(4月1日～3月31日)、受付カウンターにビニール壁を設置、研修室は利用人数制限と利用目的制限(定員20名、自習での利用は不可)、インターネットコーナー・持込パソコンコーナーの利用時間制限(1時間)、DVDコーナーの利用回数制限(1回)、座席数は半減、体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドを設置 <p>⑤利用マナー啓発業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マナーアップキャンペーン」を実施して(7月7日～8月27日)、「グッドマナーチャレンジカード」を554枚配布し、達成者は68人 		
課題等	・経年劣化しつつある設備のメンテナンス		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部の業務が計画通りには実施できなかった	評価	B
(3) 図書館から遠い所に住んでいる人にも、サービスできる図書館			
R3年度事業計画	<p>①移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館車「わっしょい文庫」に常時3,500冊の図書を積載し、6コース36ステーションを2週間に1回の周期で巡回 ・コース、ステーション等の半年毎の見直し ・地域イベント等に合わせた移動図書館車臨時出張サービスの実施 		
事業実施状況	<p>①移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館車「わっしょい文庫」に常時3,500冊の図書を積載し、6コース36ステーションを2週間に1回の周期で運行 ・臨時休館中も各ステーションを巡回し、感染予防に努めながら通常業務を実施 ・各コース、ステーションの利用状況を分析 ・「マックスバリュ新田店」の閉店に伴い、ステーションを3月18日をもって休止 ・「防府市緑花祭」(4月24日・25日)、「みんな集まれ! はたらく車展」において、移動図書館車の臨時出張サービスを実施 		
課題等	・移動図書館ステーションの利用度格差の拡大		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域イベントのほとんどが中止となり、臨時出張サービスが計画通りには実施できなかった	評価	B

(4) 調査・研究・読書相談などに、的確に対応できる図書館			
R3年度 事業計画	①レファレンス(調査研究相談・読書相談)業務 ・調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスの推進 ・国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進と「レファレンス協同データベース」の活用 ・他の図書館や機関等に問い合わせたり案内したりするレフェラルサービスの推進 ・レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー(テーマ別資料利用案内)等の充実 ・レファレンス研修、フロアワークの強化 ②図書館資料の複写サービス業務 ・著作権法や防府市手数料条例に基づく適正な複写サービスの実施		
事業実施 状況	①レファレンス(調査研究相談・読書相談)業務 ・調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスを実施 ・国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」について、ちらしやホームページで紹介するとともに、「レファレンス協同データベース」を活用してのサービスを実施 ・他の図書館や機関等に問い合わせたり案内したりするレフェラルサービスを推進 ・レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー(テーマ別資料利用案内)等を作成・整備 ・利用者へのサービスをより充実させるため、レファレンス研修に参加 ②図書館資料の複写サービス業務 ・著作権法や防府市手数料条例に基づく適正な複写サービスを実施		
課題等	・職員のレファレンス対応能力の向上		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面での研修のほとんどが中止となり、職員の研修が計画通りには実施できなかった	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】
1-(1) さまざまな世代が利用できるほど多くの蔵書があり、児童図書購入増加についても評価できる。 1-(1) コロナ禍による休館中も予約資料の貸出や予約・リクエストの受付、移動図書館車の運行を実施し、わずかながら個人貸出者数、館外個人貸出冊数が増えたことを評価する。 1-(2) システムの更新に伴い、資料検索などのためのタブレット端末機を導入したことやフリースポットWi-Fiを設定するなど、「今の時代」にマッチした取組を評価する。 1-(2) 「防府市メールサービス」や防府市文化振興財団(以降、財団)広報「メールマガジン」へ随時、記事を掲載し、これまで以上に広報に力を入れており、評価できる。 1-(2) コロナ対策として、体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドを設置したことは、評価できる。 1-(2) 図書館年報の入館者数の月別で掲載すると、開館と休館中の状況が分かりやすくなるため、要望する。 1-(2) お話のへやなどの閉鎖や座席数半減などの早期終了を望む。 1-(3) 「わっしょい文庫」の貸出冊数がステーション別に記載されているが、利用人数や冊数に関係なく運行をしてほしい。 1-(3) オンライン図書館研修への積極的な参加を期待する。

2 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館

(1) 様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館

R3年度事業計画	①ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務 ・第10回「防府市子ども読書フェスティバル」(6月5日)、第31回「防府図書館まつり」(10月16日)を、各実行委員会、ボランティア団体等と協働で開催		
事業実施状況	①ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務 ・第10回「防府市子ども読書フェスティバル」を7月17日(参加者数203人)に、第31回「防府図書館まつり」を3月12日(参加者数1,031人)に、各実行委員会、ボランティア団体等と協働で開催		
課題等	・各行事の参加者数を増やす方策		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントを計画通りには開催できなかった	評価	B

(2) 学習ボランティアや、障害のある利用者のためのボランティアが、いきいきと楽しく活動できる図書館

R3年度事業計画	①ボランティア活動推進業務 ・「防府図書館ボランティア連絡会議」の開催(1月) ・「図書館ボランティア養成講座」の開催(2月頃4回シリーズ)		
事業実施状況	①ボランティア活動推進業務 ・「防府図書館ボランティア連絡会議」を1月20日に開催し、現状と課題について意見交換(参加者数16人) ・「図書館ボランティア養成講座」を2月3日(参加者数13人)、2月10日(参加者数9人)、2月17日(参加者数13人)に開催したが、2月24日は講師の都合により中止		
課題等	・新たなボランティアの養成とスキルアップ		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 2-(1) コロナ禍のため開催できなかったイベントもあったが、コロナ対策を講じながら「防府市子ども読書フェスティバル」「防府図書館まつり」などを行うことで、地域の人々にとって、図書館が豊かな交流の場であるという意識の向上につながっており、評価できる。
- 2-(1) コミュニティセンターとしての機能を兼ね備えた図書館の在り方が利用者の増加につながっており、評価できる。
- 2-(1) ボランティア連絡会議やボランティア養成講座が実施できてよかったが、ボランティアを若い人に広げるための方法や各行事の参加者を増やすための工夫が必要である。
- 2-(2) サークルを中心としたボランティアだけでなく、個人で参加できる場を設けてほしい。
- 2-(2) ボランティア養成講座リモートでの開催や中止になった講座もあり、今後の開催に工夫を期待する。初心者ボランティアの養成講座や受講後の活動場所等の情報があれば、新しい方の参加や新しい交流の場も生まれるのではないかと。

3 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

(1) 様々な図書館行事を積極的に行い、地域の文化発展に貢献する図書館

R3年度 事業計画	①イベント・懇談会業務 ・「トークイベント」第10回「防府市子ども読書フェスティバル」(6月5日)において、詩人・絵本作家の林木林氏によるトークイベントを開催 ・「防府図書館ビブリオバトル」の開催(11月・3月の2回) ・「月いちキネマ」の開催(毎月1回) ・「シニア向け実用講座」(9月・3月の2回) ・「防府図書館利用者懇談会」の開催(11月) ②資料展示・展覧会業務 ・展示ケース・中央カウンター前・児童カウンター前での月例資料展示、新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示の定期的な実施 ・新聞・雑誌コーナー壁面での市民の作品展覧会の開催		
事業実施 状況	①イベント・懇談会業務 ・第10回「防府市子ども読書フェスティバル」(7月17日開催)において、詩人・絵本作家林木林氏によるトークイベントをリモートで開催(参加者数70人) ・「防府図書館ビブリオバトル」は、第1回を中学生大会として11月13日(参加者数34人)、第2回を3月21日に開催(参加者数23人) ・「防府図書館利用者懇談会」を11月28日(参加者数9人)に開催 ・「月いちキネマ」を毎月1回開催(5月と9月は臨時休館中のため中止) ・シニア向け実用講座「大人の暮らし塾」を前期後期に各2回開催(9月29日、10月7日、2月16日、3月10日:参加者数48人) ②資料展示・展覧会業務 ・展示コーナー・中央カウンター前・児童カウンター前での月例資料展示を36回、新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を48回実施 ・新聞・雑誌コーナー壁面での展示を9回実施		
課題等	・各行事の参加者数を増やす方策		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催できなかったイベントがあった	評価	B

(2) 生涯学習グループ活動を奨励し、その育成を図る図書館

R3年度 事業計画	①生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務 ・生涯学習グループへの機会・場・設備・資料等の提供と活動支援の推進		
事業実施 状況	①生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務 ・新型コロナ感染拡大防止のため、お話のへや・準備室の利用を禁止し、研修室は利用にあたっての人数・時間制限を設けた		
課題等	・グループ数や会員数を増やす方策		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、活動の支援を十分にはできなかった	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

3-(1) コロナ禍であっても、対策を講じながらイベントを実施した点は評価できる。

3-(1) 詩人・絵本作家によるトークイベント開催など、地域の文化発展に貢献しているといえる。

3-(1) コロナ禍のため、開催できないイベントはあったものの、例年通り、展示コーナーなどでたくさんの展示をしたことや数多くの講座などを開催していることを評価する。

3-(1) ビブリオバトル中学生大会を評価する。高校生大会も期待したい。シニア向けの実用講座「大人の暮らし塾」は良い企画であり評価する。今後も継続を望む。

3-(1) アクティブシニアを講師に迎えるという発想があってもよいと思う。

3-(1) 図書館が集会文化活動に果たす役割が大きいことから、コロナ禍にあって、感染予防対策や参加者、会場の規模等を考慮して参加者を増やす方策を望む。

3-(2) 新型コロナ感染対策のため、お話のへやの閉鎖による研修室でのおはなし会の実施や研修室の利用制限については、課題もあるため緩和を望む。

3-(2) ルルサス防府1階に生涯学習課の文化センター機能が移転し、ルルサス防府周辺が大きな文教地帯になるにあたって、図書館の位置表示板を作成する等、図書館が3階にあるという表示の設置を望む。

4 地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館

(1) 地域(郷土)資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

R3年度 事業計画	①地域(郷土)資料収集業務 ・地域資料、特に防府市関係資料についての、特徴的なコレクション形成の推進 ・年間郷土資料収集目標冊数450冊		
事業実施 状況	①地域(郷土)資料収集業務 ・地域資料、特に防府市関係資料について情報を収集し、多岐にわたる分野の資料を収集 ・年間郷土資料収集冊数1,091冊(購入冊数108冊、寄贈冊数983冊)		
課題等	・郷土資料出版情報の収集に係る体制の確立		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 地域(郷土)の歴史や文化に係る事業を積極的に行う図書館

R3年度 事業計画	①上山満之進と三哲文庫顕彰業務 ・展示室常設展示「上山満之進と三哲文庫」の展示替え ・ブラウジングコーナーでの上山満之進関連展示(10月) ・「防府図書館80年の歩み」の発行(三哲文庫開館80周年記念事業) ②「防府史料」刊行業務 ・防府史料第71集の刊行とホームページへの掲載(3月)		
事業実施 状況	①上山満之進と三哲文庫顕彰業務 ・展示室常設展示「上山満之進と三哲文庫」を一部展示替え ・ブラウジングコーナー壁面において、パネル展示「上山満之進の生涯」を実施(10月1日～11月1日) ・「防府図書館80年の歩み」を発行(三哲文庫開館80周年記念事業) ・「三哲文庫」新名称標を入口のガラス面に掲示 ②「防府史料」刊行業務 ・防府史料第71集『周南先生文集 初編 自三至四』(山県周南・著)を3月18日付けで刊行し、ホームページへ掲載		
課題等	・郷土史、郷土文学に関する職員研修		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

(3) 姉妹都市などの図書館との交流事業を推進し、国際理解を深めるための資料を積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

R3年度 事業計画	①春川市立図書館との資料交換業務 ・大韓民国春川市立図書館との資料交換と市民への提供(年1回、100冊程度交換)		
事業実施 状況	①春川市立図書館との資料交換業務 ・大韓民国春川市立図書館から寄贈された図書100冊を受贈登録し、春川市立図書館へ図書100冊を寄贈		
課題等	・外国語、外国文化に関する職員研修		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 4全体 コロナ禍での対策を講じながら予定通りに取り組むことができたことからすると、評価はAでよいのではないかと。
- 4-(1) 郷土コーナーが年々充実し、郷土の歴史や文化について深く学ぶことができるようになっており評価できる。
- 4-(1) 地域資料や防府関係資料について、防府図書館独自の特徴的なコレクション形成に努めており評価できる。
- 4-(1) 郷土資料の収集冊数が寄贈により増加したことが評価できる。更なる情報発信を望む。
- 4-(1) 郷土の偉人をもっと紹介し、その功績を展示してほしい。また児童用パスファインダーをまとめた子ども向けの郷土資料の作成を期待する。
- 4-(2) 防府図書館開館80周年記念事業として「防府図書館80年の歩み」を発行したことや、「防府史料」の刊行と公開の継続は、地域の歴史や文化に係る事業を積極的に行う防府図書館の特色の一つで、十分に評価できる。今後も地域資料の情報発信の継続を望む。
- 4-(2) 「上山満之進と三哲文庫」の展示による情報発信を評価する。新名称標や「三哲文庫」のロゴも馴染んでいるが、その意味を理解するため、図書館入口の新名称標の説明板を望む。
- 4-(3) 国際理解のための新しいイベントを望む。

5 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館

(1) 学校や公民館との連携を深め、支援事業・協力事業を推進する図書館

R3年度 事業計画	①学校図書館支援業務 ・学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書の利用促進 ・学校司書の研修の機会や場の提供 ②「地域文庫」・「貸出文庫」・団体貸出業務 ・地域文庫・貸出文庫の利用促進		
事業実施 状況	①学校図書館支援業務 ・学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出(件数673件・冊数4,239冊) ・学校司書の研修の機会や場を随時提供 ・防府市中教研図書館研究部会議に職員を派遣し、各種サービスやビブリオバトルの進め方について説明 ・小学校(11校)で開催された選書会のためのリスト作成と新刊図書貸出 ②「地域文庫」・団体貸出業務 ・地域文庫・貸出文庫を運営 ・新型コロナ感染拡大防止のため、留守家庭学級を対象に、貸出のための選書を職員が代行するサービスを実施		
課題等	・学校図書館とのネットワークシステムの有効活用		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館

R3年度 事業計画	①他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務 ・他の図書館との資料相互貸借・レファレンス協力・合同研修等の推進 ・文書館・博物館・美術館との連携強化 ②本財団内連携業務 ・財団内連携推進会議の開催(随時) ・文化事業との連携推進 ・科学事業との連携推進		
事業実施 状況	①他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務 ・県内外の図書館との資料相互貸借(貸出1,176冊・借用739冊)・レファレンス協力・合同研修等を実施 ・文書館・博物館とネットワークを通じてMLA連携 ・山頭火ふるさと館との連携として、山頭火の「今月の一句」と解説の展示、自由律俳句大会のための投句箱を設置、「山頭火を学ぶ会」に講師として職員を派遣 ②防府市文化振興財団内連携業務 ・財団内連携推進会議を随時開催し、連携事業について検討・協議 ・文化事業との連携として、アスピラートの「ふわふわシナモロール展」に合わせて関連資料を展示 ・科学事業との連携として、ソラール「あつまれ！本の虫」に合わせて関連資料の展示、学芸員によるギャラリートーク(7月17日:参加者数16人)、関連講座「むしむしイマジジン！～想像してみよう虫のこと～」(7月22日:参加者数31人)を開催、「紅葉どんぐり便」の受付窓口を図書館と移動図書館車に設置(11月1日～23日)		
課題等	県内外の図書館等との連携強化		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、財団内連携業務が計画通りにはできなかった	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 5-(1) 小学校での選書会のためのリスト作成や新刊本の貸出などの学校支援について、学校司書との連携により有意義に実施できており評価できる。
- 5-(1) 留守家庭児童学級への貸出選書の代行を評価する。
- 5-(1) 図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務も評価できる。更なる活用を期待する。
- 5-(2) 財団内連携事業の開催は、防府図書館の特徴の一つで、評価できる。特にソラールとの連携企画が良かった。今後も他団体や財団3館との連携で企画展の合同開催を望む。

6 子どもたちの読書活動を進めていく図書館

(1) 子ども読書活動推進を図るための研究と事業を、積極的に行う図書館

R3年度 事業計画	①子ども読書活動推進業務 ・「子ども図書館員」の開催(7月、8月に1回ずつ) ・「第9回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」の防府市教育委員会との共催 ・「調べる学習にチャレンジ！」(7月、8月に1回ずつ) ・「読書感想文教室」の開催(7月～8月) ・「おはなし会」の開催(家庭の日・クリスマス) ・職場体験・図書館見学等の奨励 ・公共施設等での出前講座・出張イベント等の開催		
事業実施 状況	①子ども読書活動推進業務 ・「子ども図書館員」を7月26日と8月2日に開催(参加者数17人) ・「第9回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」を防府市教育委員会と共催(応募作品数:小学生21点・中学生6点) ・「チャレンジ!調べる学習」を7月31日に開催(参加者数9人) ・「読書感想文教室」を7月24日、25日に開催(参加者数38人) ・「さんさんおはなし会」を毎月第3日曜日に開催(5月、9月、2月は新型コロナ感染対策のため中止) ・「クリスマスおはなし会」を12月19日(参加者数22人)に開催 ・職場体験・図書館見学等を受入(職場体験:5件91人、図書館見学:8件485人) ・「えんしん幼稚園」に出張(6月7日)して絵本の読み聞かせを実施		
課題等	・調べる学習コンクールへの出品者数を増やす方策		
自己評価	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催できなかったイベントがあった	評価	B

(2) 子ども読書活動推進のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

R3年度 事業計画	①ボランティアとの連携・協働業務 ・ボランティアとの連携・協働の推進 ・ボランティア主催行事・研修等における図書館職員のブックトーク等の実施		
事業実施 状況	①ボランティアとの連携・協働業務 ・ボランティアとの連携・協働について関係者と随時情報交換 ・「おはなしでんしゃ」のおはなし会(7月14日・10月27日)、「かすが文庫」のおはなし会(6月24日・10月21日・12月13日)、「利用者・サークル連絡会」の研修会(7月15日・12月2日・2月2日)、「学校図書館ボランティアネット・防府」の研修会(6月24日)において、図書館職員によるブックトーク等を実施		
課題等	・ボランティアとの協働事業の推進		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 6全体 努力しているため、評価はAでよいのではないか。
- 6-(1) 子どもたちが本好き、図書館好きになるイベント等が多く、積極的に子ども達と関わり読書活動に取り組んでおり評価できる。
- 6-(1) 「さんさんおはなし会」や「絵本の読み聞かせ」等は、参加した保護者にも読書活動を始めるきっかけ作りになっており、評価できる。
- 6-(1) 「読書感想文教室」が新しく開催されたことは評価できる。今後の継続を望む。
- 6-(1) 図書館を使った調べる学習コンクールの継続開催は、評価できるが、夏休みが短くなっているため、コンクールの周知徹底を早めにしてほしい。
- 6-(1) 中学生のビブリオバトルを評価する。今後は、高校生を巻き込んだ企画の開催を期待する。
- 6-(2) 図書館員によるブックトークの実施を評価する。職員養成のために継続を望む。
- 6-(2) 小学校の図書委員の児童を対象にした出前講座等、ボランティアとも連携・協働をしながら、専門的な立場から子どもたちに本の楽しさを伝える活動を期待する。
- 6-(2) ルルス防府1階に子ども図書室の設置を検討してほしい。

7 障害者や高齢者に優しい図書館

(1) 障害者や高齢者が、気軽に楽しく簡単に利用できる図書館

R3年度 事業計画	①障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務 ・点字本・大活字本・音声資料等の整備・充実 ・視覚障害者用音声付インターネットサービス利用の促進		
事業実施 状況	①障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務 ・点字本・大活字本・音声資料等を収集・整備 ・視覚障害者用音声付インターネットサービスについて、リーフレットやホームページ上で紹介 ・デージー図書やCDを再生できる録音図書再生機を参考カウンターに常備し、館内貸し出しを開始(12月18日～)		
課題等	・障害者や高齢者の図書館利用促進		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

(2) 視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービスを、積極的に行う図書館

R3年度 事業計画	①対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等の業務 ・対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等のサービスの推進 ・国立国会図書館「視覚障害者等用データ送信サービス」送信承認館の登録と利用促進		
事業実施 状況	①対面朗読・音訳図書製作・郵送貸出等の業務 ・対面朗読(0件)・郵送貸出(1件) ・国立国会図書館「視覚障害者等用データ送信サービス」送信承認館として登録(9月21日)		
課題等	・障害者や高齢者のためのサービスの周知		
自己評価	郵送貸出の利用が少なく、対面朗読の利用もなかった	評価	B

(3) 障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

R3年度 事業計画	①障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務 ・ボランティア活動への支援 ・ボランティアによる施設・設備・資料等の活用の促進		
事業実施 状況	①障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務 ・ボランティア活動への支援として、ホームページ上での会員募集を実施 ・ボランティアへの施設・設備・資料等の提供		
課題等	・次世代を担うボランティアの育成		
自己評価	・概ね計画通り実施できた	評価	B

【図書館協議会の意見(案)】

- 7-(1) 障害者や高齢者の図書館利用促進のため、様々なサービスや情報の提供等が行われていることは評価できる。
- 7-(1) 「防府図書館ひなぎくネット」をPRLし、視覚障害者へのデータ提供の促進と周知を望む。
- 7-(1) 図書館内には、各種読書補助具が用意されており、利用があることは評価できる。
- 7-(1) 大活字本や音声資料を広く紹介する場を設けてはどうか。
- 7-(1) 高齢者向けに、変化の速い社会に対応できるよう身近で新しい言葉やシステムについての講座などの企画を望む。
- 7-(2) 録音図書再生機設置や国立国会図書館送信承認館登録など視覚障害者向けの新サービス開始が評価できる。
- 7-(2) 移動図書館車の利用者を障害者や高齢者にも拡げることができないだろうか。